

令和7（2025）年度 第2回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- * 日 時 令和7（2025）年10月7日（火） 午後6時30分～午後7時30分
- * 会 場 柏崎市役所 1階 多目的室
- * 出席委員 8名：岸勝巳委員、片桐秀樹委員、蓮池純夫委員、三井田正志委員、岡村美奈子委員、関沢恵委員、土田由紀委員、村山智恵委員
- * 欠席委員 なし
- * 事務局 6名 【学校教育課】山之内知行課長、廣田多恵子係長、千原健志副主幹、
廣田雄大主査
【商業観光課】土田洸希主事、北村杏奈主事

1 開会 司会：事務局

2 挨拶 会長

昨日は十五夜、今日は十六夜であり、その次も十七、十八と月を楽しむことができるとされている。楽しむためには心のゆとりを持つことが大切である。かしわざきこども大学での体験が、子供たちの感性を育むきっかけになると良い。

本日の議事に上がっている来年度の実施予定事業について、各委員の立場から、多くの意見をいただきたい。

3 議事 進行：会長

(1) 令和7（2025）年度 事業実施状況について

ア 「自然体験コース」 【事務局】 資料1

今年度、当初の予定どおり事業を実施しており、これまでに申し込みがあった28園中22園が実施済みである。各園からは、実施後に活動報告書を提出してもらうことになっており、今回は5つの園の報告書を抜粋して会議資料とした。どの体験活動についても、「普段の園生活の中だけでは体験できない活動メニューとなっており、楽しく貴重な経験ができた。」というような感想が寄せられた。

【会議後訂正】自然体験コースのバス利用予定は全28園であるが、体験料の負担金は全30の園に支出予定。

イ 「エネルギーのまち、柏崎探求コース」 【事務局】 当日配布資料

10月4日（土）当日の様子についてお伝えする。当日は、午前9時から正午までの時間で実施し、児童14名（1名は当日欠席）、保護者12名の参加があった。なお、定員は15組（子どもの人数が15人）としており、募集定員に達していた。

9時に開講式を行い、1日のスケジュールを説明後、バスに乗車した。株式会社リケンに到着してからは、まず全体で株式会社リケンが実施している事業や水素、環境などについて説明を受けた。その後は2グループに分かれ、水素ロケットの実験、水素ステーションと水素トラックの見学を行った。当日記入していただいたアンケートについて、現在取りまとめ中であるが、非常に満足度が高く、肯定的な意見が多く書かれていた。アンケートの内容からも、子どもたちは水素エネルギーや環境のことを十分に学ぶことができていた。一方、アンケートの中で中高生が学ぶ機会もあった方が良いという記載もあった。

ウ 柏崎の『水』探求コース 【事務局】 当日配布資料

1 1月8日（土）に予定している「柏崎の『水』探求コース」について、新規事業として準備を進めており、すでに定員を超過したため受付を終了している。

エ 「ものづくりのまち柏崎・歴史探求コース」 【事務局】 当日配布資料

1 1月29日（土）に「ものづくりのまち柏崎・歴史探求コース」を実施予定である。現在、参加者を募集中であり、周囲の小学生に声を掛けていただきたい。

また、1 2月20日（土）には「国際交流コース」を計画している。

オ 「キャリア教育コース」 【事務局】 当日配布資料

（ア）実施状況について

6月19日（木）に鏡が沖中学校、7月11日（金）に県立柏崎翔洋中等教育学校と、現段階で2校が実施している。県立柏崎翔洋中等教育学校は、人数の関係により2クラス合同で実施した。今後、10月23日（木）に第二中学校、12月16日（火）に東中学校が実施予定であり、資料中の参加人数については空欄としている。

（イ）実績について

別紙「令和7年度 体験型プログラム 生徒アンケート結果」のとおり

（ウ）感想について

資料のとおり参加した生徒・教員・保護者サポーターから高評価をいただいている。

（エ）「いきいきゲーム」について

当日は、担当者として実施状況を確認した。参加者がゲームの内容を理解し、集中して取り組んでいる様子が確認でき、非常に良い活動だと感じた。

カ こどもの笑顔創造プロジェクト補助金について（報告） 【事務局】

令和7（2025）年6月の運営協議会（第1回）で委員から意見をいただき、補助金の廃止に係る最終的な判断は、事務局に委ねるとしていただいた。その後、7月下旬に開催された定例教育委員会において、教育委員に対して補助金を廃止する方向で進めることを示し、反対意見等は出なかった。

7月の定例教育委員会を経て、事務局として廃止という判断を固め、今年度の申請団体に対して8月初旬に廃止予定に係る事前周知を行った。その後、団体からの意見・要望などは確認していない。なお、一つの団体からは、8月下旬の会議において、令和8（2026）年度 of 取組を精査するための話し合いを実施したと聞いている。

－質疑・応答－

【委員】 自然体験コースについては、多くの園が利用しており、保育園・幼稚園側としては非常にありがたい取組みである。キャリア教育コースの参加校の少なさが気になるところだが、希望する学校が同コースを利用しているのか。

【事務局】 そのとおりである。

【委員】 柏崎の「水」探求コースは、とても良い企画であると思う。ぜひ、米作りと水の関係性についても学んで欲しい。米作りには水が不可欠であり、地域の中で水を巡ったトラブルに発展するケースもある。今年度、上越地区では、渇水により米が大打撃を受けた。水が必要な産業、ものづくりとも関連付けて、このテーマを充実させていただ

きたい。

【事務局】 今回、コースの中で「さけのふるさと公園」の見学を予定しており、生き物や環境に関連付けて学ぶ機会にしたいと考えている。鮭についても、近年は不漁が続いており、今年は豊漁まつりも実施しない予定とのことである。環境の変化など苦しい現状も含めて、子供が考えるきっかけにしたい。

【委員】 今の鮭の話にあるように、海流などの気候変動によって鮭の捕れる位置が変わってきている。海も含め、水という大きなテーマで考えられると良い。

【委員】 「エネルギーのまち、柏崎探求コース」について、親子15組という参加定員の設定意図を教えてください。また、参加者からの、中高生向けの企画があると良いという意見について、将来的に中高生向けに広げる可能性はあるのか教えてください。

【事務局】 15組という定員は、事業者側から提示された受入可能な人数である。今回、株式会社リケンの社員が11人、市が4人という総勢15人のスタッフで対応した。保護者の方にも付き添っていただいたが、水素の実験ではスタッフの個別対応が必要な場面もあり、親子15組という設定は妥当であったと考える。

また、中高生向けのイベントであるが、実際、昨年の国際交流コースでは高校生向けに案内をしても参加者がいなかったという現状がある。中高生は、小学生と異なり保護者の勧めで参加するという行動が起こりづらい。中高生が興味を持って参加する内容の企画は、今後も継続課題として、委員からもアイデアをいただきながら考えていきたい。

【委員】 保育園・幼稚園については、ほぼ全てこども大学事業を利用しているということだが、小中学校についても全学校が学校教育活動推進事業による恩恵を受けている。

(2) 令和8（2026）年度 実施予定事業概要（案）について…資料2

ア 「自然体験コース」 【事務局】

対象児童数の減少を見込み、プログラム負担金を16,000円減の216,000円とした。バスの借上料についても対象人数（乗車人数）の減少は見込まれるが、労務単価の増などによる値上げも考えられることから、令和7年度の額で据え置きとした。

イ 「科学体験教室（仮）」 【事務局】

今年度のドローンプログラミング教室の代替案である。新潟工科大学の担当者に次年度の内容について打診した際、大学としてはできれば子供たちが大学に来る機会を作りたいということであり、大学祭（6月上旬）での簡単な講義や実験コーナーなど、子ども向けのブースを作るのはいかがでしょうかという案をいただいた。対象者は、ブースのバリエーションにより小学生から中高生まで広く対応できそうである。実施費用が今年度と同等となるよう、内容の調整を行う。なお、次の国際交流コースにも関わるが、大学との連携ということで、次年度は、新潟産業大学との連携も検討している。

ウ 「国際交流コース」 【事務局】

今年度、「クリスマスのつどい」を12月20日に実施予定である。来年度は、今年度実施できなかった水球の交流事業について機会を探りつつ、新潟産業大学の留学生との交流

についても関係者と可能性を探っている。予算上は、アルフォーレの借上げ料のみを計上した。

エ 「エネルギーのまち、柏崎探求コース」 【事務局】

来年度も環境課と連携して事業を実施する予定である。来年度は、平井地内の株式会社インペックスのブルー水素製造プラントの見学を軸とした内容を予定している。講師謝礼、バス借上料、消耗品費を計上している。

オ 「ものづくりのまち柏崎・歴史探求コース」 【事務局】

来年度についても、柏崎が持つ資源を生かし、工場や工房の見学などを実施したいと考えている。

カ 「学校教育活動推進事業」 【事務局】

学校統合による学級数の減少を考慮し、207,000円を減額した2,183,000円を子ども育成基金から支出する予定である。

キ 「運営協議会」 【事務局】

来年度の運営協議会の開催について、年3回の開催として委員8人分の予算を計上した。

ク 「キャリア教育コース」 【事務局】

このコースは今年度をもって終了としたい。理由として、すでに学校ごとにキャリア教育の取組みができており、募集をしても参加校が少ない。また、青年会議所や民間事業者による企画やイベントが増えている中、市が主導で行うことは民業の妨げに繋がりがねないためである。次年度以降、キャリア教育に関わるニーズが生じた場合に、改めて取り組めることを検討することとしたい。

－質疑・応答－

【委員】 柏崎の「水」探求コースについて、申込みが多数あったとのこと。来年度の事業計画に記載がないが、ニーズがあれば続けてはどうか。

【事務局】 当該コースは、今年度、上下水道局が水道事業90周年記念事業を実施する中で、こども大学としても記念事業を後押しするために企画した。よって、今年度のみの実施という予定であった。しかし、まだ実施していない段階であることから、実施状況を見てから来年度以降の動きも考えていきたい。なお、本市のバスや職員の対応で実施でき、予算の支出も基本的に無いことから、柔軟に対応することができる。

【委員】 「エネルギーのまち柏崎探求コース」の水素エネルギーについても、参加者から好評だったとのこと。好評である事業について、次回は違う子供が参加する可能性があるもので、同じものを何年か続けてもらえると良いと考える。

また、高校生の参加についての話題があったが、小学生から高校生まで皆が満足する内容の企画が課題となるだろう。さらに、現状の保護者同伴という実施方法についても再検討していくべきである。

【事務局】 各コースの実施に際して、保護者の同伴は希望制であり必須としていない。半日程度子供を預かるというニーズも一定数あると想定していたが、予想以上に保護者の参加ニーズがあった。「ものづくりのまち柏崎・歴史探求コース」については、株式会社東芝の協力により実施するが、工場内への入場人数に制限があるため、原則、子どもだけの参加という形にしている。

また、高校生向けのプログラムについては、大学との協働実施が一つ有効な手段になると考えている

【委員】 柏崎高校の生物、柏崎工業高校のロボット、柏崎総合高校のものづくりというように、各校のクラブ活動がある。部活動やクラブ活動単位で、運営側（手伝い）として参加していただく方法も一つであると思う。

【委員】 次年度の「ものづくりのまち柏崎・歴史探求コース」に関する案として、柏崎には多くの逸話があるが、地域ごとの歴史に関する不思議発見のような題材を扱うのも面白いのではないか。

また、地学的な観点で、地層や海の成り立ちなどから柏崎の土地がどのように形成されたのか学べる機会があると良い。普段、中学生に勉強を教えているが、自然科学に興味がない中高生が非常に多い。宇宙や地学、化石、地球の内部などの不思議な事象について、話をしたり化石を見せたりすると、多少は興味を示すところがあるので、そのようなテーマも一つあると良いと思う。

【事務局】 学校教課所管の教育センター（理科センター）は、基本的には教職員向けの研修機関であるが、地学的な学習内容など、今回の運営協議会で委員から出た学習ニーズについて共有しておく。

【委員】 自然や歴史などに関係することで、博物館で実施している「子ども探検教室」というものがあるため、そのプログラムを参考にすることもできる。博物館は、参加料を徴収しているが、かしわぎこども大学は、他のコースでも基金を活用して実施していることから、参加費無料で実施できるのではないか。

【事務局】 市は庁用の中型バスを備えており、職員が運営すれば、工夫次第で予算をかけずに対応出来る。当初予算に計上するのが本則ではあるが、時々状況次第で柔軟な対応も可能である。

【委員】 大人の参加も大丈夫か。

【事務局】 委員については、希望があれば見学していただくことも可能である。

【委員】 今回、株式会社リケンと株式会社東芝による実施であるが、例えば株式会社リケンは、常時このような取組みを行っているのか。それとも柏崎市から要請があつて実施したのか。他にも要請があれば協力していただける事業者は多いと思う。

【事務局】 今回のこども大学事業については、市からの要請に応じてもらった形であるが、中学校の見学も受け入れる予定があると聞いている。

【委員】 柏崎の一次産業は、これからも変化が起こっていくことだろう。移住やＵターンにより柏崎に來た若者も頑張っている。そういった部分を、ぜひ子供たちに見せたい。

(3) かしわぎ子ども育成基金 収支報告…資料3 【事務局】

今年度の寄附状況について、東芝エネルギーシステムズ株式会社と東芝プラントシステム株式会社から、自動販売機の売上の一部を毎月寄附していただいている。

今後、寄附の拡大を図るため、本日配布したチラシを用いて、周知活動を行いたいと考えている。柏崎市のホームページやSNSでの周知、公共施設や郵便局などでの配架など、可能な限りの周知を行いたい。

4 連絡事項 【事務局】

(1) 今後のスケジュールについて

第3回運営協議会を来年の3月中旬に開催予定である。その際に、令和7（2025）年度実施事業の報告をさせていただく予定である。開催日については、改めて案内する。

(2) その他

本日の報酬と費用弁償については、11月21日（金）に振り込み予定

5 閉会 学校教育課長

本日は、今年度の事業進捗と次年度の事業計画について、多くの意見をいただき感謝申し上げます。今回の「エネルギーのまち、柏崎探究コース」について、私自身も全行程に同行した。水素エンジンについては、直前に新聞やテレビでも取り上げられており、参加者の関心も高まっていたことと思う。水素エンジンのトラックと従来のディーゼルエンジンのトラックを2台並べての比較、水素ステーション建設予定地の見学、水素を発生させてロケットを打ち上げる活動と、非常に充実した内容であり、子供も大人も興味を持って楽しく参加していた。

また、当日の冒頭の挨拶では、「大学は小学校や中学校と違って、自分の好きなこと、興味のあることをとことん勉強できる場所である」という趣旨の話をさせていただいた。本日、委員からも話があったが、年齢に関係なく不思議と感じたことを探求する気持ちが大切である。

かしわざきこども大学は、子供たちに多様な体験機会を提供できる有意義な取り組みであるため、今後も基金を有効に活用しながら継続していきたい。本日の冒頭、会長の話にあったとおり、自然、科学、歴史などの探求を楽しむ心のゆとりが一番大切であると感じている。また次回も多くの意見を出していただきたい。